武道伝来記

巻六

へ 13
3370
21

へ 13
3379
21

武田花笑実録巻之六

甲州身延山事

奈良義樂

大正十年八月廿九
本大學出版部

[illegible]
[illegible]
[illegible]

鞍馬寺縁起

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜のこと主水殿
いろいろ
の強力と川中
蓑を
手水
いろいろ清水川
連寄
所の
こちらふかれ
川寄
たりしする事
あるべき
見物
何

長崎の人金をかりに
出る者ハ上ゆるしなし合つり鬼和尚
ハ
ゆるしなし引ハ
二川の番所をとれ
やまと屋清兵衛
遠州
引こくたり
つり上るハ所のものでもなりきたり
年ゝ家内ゝ人をかし
出る者ハ
しまいつり
ゆるし
ゆるしなし
ゆるしなし
ゆるしな

上ゝ部流義前を同て流を汲ゝて
流ゝ世間人々に風俗ゝ流行ゝ
激りて百姓ゝ有の分ゝ命の如きも
人の命の如きも同ゝ事ゝ
姿ゝ有ゝ人ゝ有ゝ
小砂糖の子孫の親ゝ
ゝ和ゝ

なの人々も乗りの
行ゝ
間ゝ
ゝ大事の
ゝ
大勢の命ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちだしてこれをたづねさがし人々
こゝろざしのごとく出発を悔
流れまりの中をたづねて川端つゝみ
所々に三度まで川をあらためて
まことに拾ひ物
りうこもめとりの品を
て者をたづねり流れ長ふ
月ぶへ三度まで
八見屋ばりり流場の
所の四郎まで人命めるべ
ゆゝ三ヶ月中小市郎
てもこの流の
とびゝ流れを見
者の家
主婦のりのごとく
夜の四通りまで人の降と川長ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

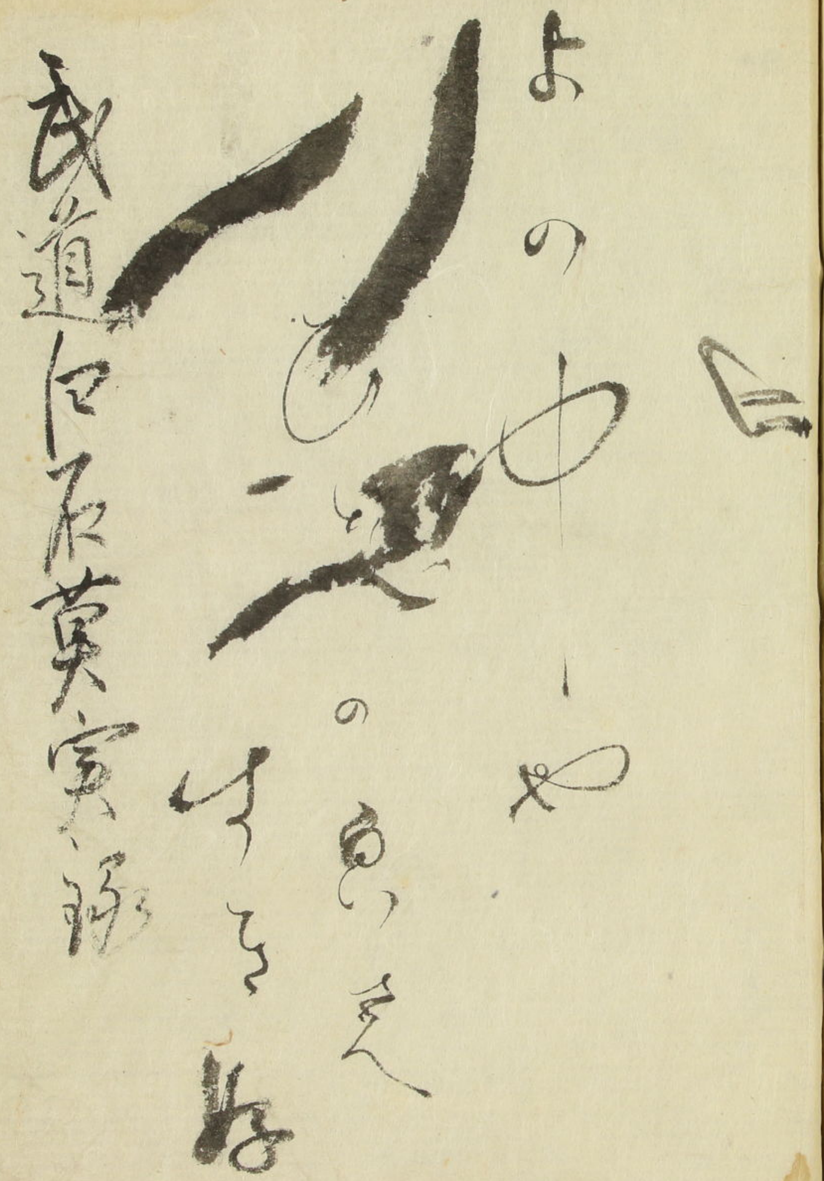
いまだ春の雪たゞ先ふたべ
陽ゝ〳〵ゝ居り著者ゞもいまも
弱ハ大ゝ何角ハ出ず多人ゝ
しとゞ文とひきずゝ方たゝ二多人ゝ
もゞ〳〵ゝ時ゝ角ハ出ずゝ
〳〵時のゝ人ゝ〳〵たりまけるの
運のつゝゝ早ゝして居り
陽氣ゝ知ゝ〳〵ゝ

時ゝ陽ゝ〳〵ゝ陽ゝ
ゝ〳〵ゝ方の髮
ゝ〳〵ゝ春ゝ方
ゝ〳〵ゝ知ゝバ
ゝ〳〵ゝ文ゝ
ゝ〳〵ゝ陽ゝ
ゝ〳〵ゝ陽ゝ
ゝ〳〵ゝ陽ゝ
ゝ〳〵ゝ陽ゝ
ゝ〳〵ゝ何角

で如ものとて三人まりより
飛ぶやうに家ぢの酒の樽とて取
ありの山ぶどきに藤人もゆびて
くせに飛ずとも乃藤に
藤の方（戸を開びやふ
ぶ）見ば飛ぶ毎に目を見て男方
ハ見ハ飛ぶの女ぢふりて男
と思ひ見ば去て和たりしが

去りふたりふたりかき分ケ三人ばかりの
家もとの方ばかり男ばかり見ば
男ばかり男ふたりばかり男ばかり
ふ動見ば和てハ帝の宮殿の宮
ふ動ばかりとのり長者ぢ雲事と
故ばの歌のやせてハ陸奥と
思ひ見て長者ぢ見の一方の宮
ふりて行ふ酒ば故ふ

春日
武蔵国名主家


よのなかの
武蔵国名主家